

1. 設立の経緯と活動（代表山泉進氏の回想から）

- ・ 1983 年秋の「平民社 80 年」の記念集会を契機に誕生  
1989 年のベルリンの壁、1991 年のソ連邦の崩壊の以前のこと  
「社会主義」が魅力を失い、「社会主義研究」がアカデミズムから追放されようとしていた時期
- ・ 「初期」に込めた意味は、集まった人たちのなかではバラバラ  
(時期的に定義しようという人 理念的に考えようとした人)  
→ 了解事項は、「社会主義」という思想の魅力を回復すること  
→ 未熟とされた明治期や大正期の社会主義者たちの人間的な魅力を掘り起こして、「社会主義」が提起してきた問題が何であったのかをもう一度見直してみよう、というチャレンジ精神

2. 「第 30 号記念アンケートに答えて」から（『初期社会主義研究』30 号から）

質問項目 ・ 自分の考える初期社会主義とは 他

- ① 自由民権運動が初期社会主義に流れ込む源流の一つ 源流となっている一つ一つの水源を掘り当てる作業の必要
- ② マルクス主義に収斂する前の社会主義、すなわち空想的社会主義などの多様な社会改革の思想並びに運動 女性がひとりの主体として社会主義を生きた様相が、つまりジェンダー視点で捉えた生の様相が考察されることは少ない
- ③ プロレタリア文学が専門 本会では、初期社会主義を「明治社会主義」と同義には扱わず、「明治」「大将」社会主義として暗黙裏に時期設定している
- ④ より原点（ルーツ）に遡って、研究する必要がある。例えば、政教社や民友社、更に明治 10 年代の混沌としているが豊饒な社会主義関係の著作を再評価する必要がある。
- ⑤ 明治新政府が立ち上がってから男子普通選挙制度ができるぐらいまでの... いろいろと挫折や混乱の多いその頃の主義思想は、まだ制度も国家への信頼も不安定な生煮えな時代ゆえか、今より自由な発想に基づく新たな社会に向けたあらゆる展望。あるいは現代まで続く思想の根源的要素をあまねく胚胎している。そこに初期社会主義研究の面白さを感じる。
- ⑥ 初期社会主義の思想と運動から美点を拾うことが、初期社会主義研究の意義。その美点とは、自治的な社会を構想する思想的営為。
- ⑦ 体制となった「社会主義」から「社会主義」の理念を救済する試み。教義脱談された「社会主義」の歴史ではなく、息をしている人間の「社会主義」の歴史を知ることが出発点。「初期」という視点も一つの有効な視点。

3. 運動論・組織論から主体論への歩み

『初期社会主義研究』の既発行分と特集等

- 第1号 初期社会主義研究の現状と課題（荻野富士夫他）他（1986年）
- 第2号 村井知至におけるモリス受容（山田眞実）他（1988年）
- 第3号 初期社会主義における経済学と社会主義（杉原四郎）他（1989年）
- 第4号 社会主義詩人・児島花外（野口存弥）他（1990年）
- 第5号 観音峠を越えてー幸徳秋水ー（山泉進）他（1991年）
- 第6号 初期社会主義と河上肇（杉原四郎）他（1992年）
- 第7号 特集 〈平民社90年〉（1994年）
- 第8号 特集 〈冬の時代〉（1995年）
- 第9号 特集 〈平民社群像〉（1996年）
- 第10号 特集 〈堺利彦〉（1997年）
- 第11号 特集 〈初期社会主義の現状と課題〉（1998年）
- 第12号 特集 〈幸徳秋水〉（1999年）
- 第13号 特集 〈社会民主党100年〉（2000年）
- 第14号 特集 〈兆民と秋水 没後100年と『帝国主義』〉（2001年）
- 第15号 特集 〈大杉 栄〉（2002年）
- 第16号 特集 〈平民社百年〉（2003年）
- 第17号 特集 〈非 戦〉（2004年）
- 第18号 特集 〈石川三四郎〉（2005年）
- 第19号 特集 〈『新紀元』—社会主義と基督教〉（2006年）
- 第20号 特集 〈日本社会主義同盟〉（2008年）
- 第21号 特集 〈初期社会主義研究の新展開〉（2009年）
- 第22号 特集 〈大逆事件100年〉（2010年）
- 第23号 特集 〈大逆事件処刑100年〉（2011年）
- 第24号 特集 〈『近代思想』創刊100年と大杉栄〉（2012年）
- 第25号 特集 〈グローバリズムと初期社会主義〉（2014年）
- 第26号 特集 『大杉栄全集』完結記念／女性解放と初期社会主義（2016年）
- 第27号 特集 ロシア革命100年（2017年）
- 第28号 特集 <マイノリティ>と<差別>（2019年）
- 第29号 特集 1920年前後 東アジア（2021年）
- 第30号 特集 社会主義200年（2022年）

初期社会主義研究会のウェブサイト：<http://shokishaken.web.fc2.com/index.html>

補足 2004年11月2日、日韓学術交流シンポジウム「日本初期社会主義との対話—日本初期社会主義研究会との学術交流—」を実施。主催、高麗大学日本学研究センター。鄭愛英・徐民教夫妻、李京錫氏の企画による。

## 告知

### 1. 共同研究の進め方について

役割分担 主幹 本郷隆盛先生 後藤彰信  
幹事 田中豊さん 銭正枝さん

### 2. これからの予定

#### ① 12月下旬 24（土）or 25（日）頃か

田中豊さんに報告者となっていただき、  
木下順二・江藤文夫編『中江兆民の世界 『三酔人経綸問答』を読む』（筑摩書房 1977年）を読みたいと考えております。

② 本郷先生のご紹介で、島藺進先生にご編著『シリーズ思想の身体 悪の巻』春秋社（2006/11）をテキストに、「宗教的悪から限界意識のスピリチュアリティへ」へというタイトルで、ご報告いただけることになりました。

期日：1月28日（土）14：00～